



### 林家たい平

(はやしや・たいへい)

嘶家。1964年、埼玉県生まれ。88年、林家こん平に入門。92年、二つ目昇進。以後、多くの賞を受賞する。2000年、真打昇進。08年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。10年、武蔵野美術大学客員教授に就任。落語協会所属。出囃子は「きつちよ」。日本テレビ「笑点」レギュラーメンバーとしても活躍中。

林家たい平『笑点絵日記』  
びあ／2007.2 (定価1200円)



四十歳と過ぎた或る日  
『14歳の君へ』という本に出会った。  
最初はわかった気がしたが、  
余計にわからなくなってきた。  
でも、そのわからなさを、  
今は嬉しい。だって、考えるのも  
楽しくなるから。  
林家たい平

## 池田晶子・著作案内 Information & Bibliography

### 人生がある、という 不思議な味わい

#### 『暮らしの哲学』

毎日新聞出版／2007.6 (定価1333円)  
めぐる季節の中で、暮らしの中で、問い続けた存在の謎。人生という不可解な旅を生きるすべての人に贈る精神の歳時記。

#### 『私とは何か』

さて死んだのは誰なのか？  
講談社／2009.4 (定価1500円)  
「考える」こと、その原点がここにある。「誰もいない私」の視点で世界を見れば、すべての本質が見えてくる。少女期の創作「空を飛べたら」一篇を併録。

#### 『魂とは何か』

さて死んだのは誰なのか？  
トランスビュー／2009.2 (定価1500円)  
その人は、なぜその人なのか？「魂」と名付けた不思議な気配を、哲学が辿りついた感じる文体で語りだす。旧著『魂を考える』の増補新版。著者の独創。

#### 『死とは何か』

さて死んだのは誰なのか？  
毎日新聞出版／2009.4 (定価1500円)  
人生が存在しているのは「死」という謎があるからだ。謎を味わい問い続けてゆく、果てしない精神の物語。最後の講演草稿と自筆原稿作品を収載。

#### 『犬の力を知っていますか？』

毎日新聞出版／2015.8 (定価1600円)  
なぜ、かくも犬と酒は愛おしいのか！犬と酒をめぐる池田晶子のアンソロジー。

### 悩むな、考えろ！ ——「メタフィジカル・エッセイ」

#### 『人間自身』

考えることに終わりなく！  
新潮社／2007.4 (定価1200円)

#### 『知ることより考えること』

新潮社／2006.10 (定価1200円)

#### 『勝っても負けても』

41歳からの哲学！  
新潮社／2005.8 (定価1200円)

#### 『41歳からの哲学』

新潮社／2004.7 (定価1400円)  
「平和な時でも人は死ぬ」「信じなくても救われる」「この世に死んだ人はいない」。生きる意味を問い直す、週刊新潮連載、大人のための痛快哲学エッセイ。最終巻に、自ら記した「墓碑銘」を収載。

#### 『あたりまえなことばかり』

トランスビュー／2003.3 (定価1800円)  
切れ味鋭い文章と疾駆する思考が、世の常識を鮮やかに覆す。独自の幸福論を含む、極上の哲学エッセイの世界。

#### 『ロゴスに訊け』

KADOKAWA／2002.6 (定価1600円)  
「なぜ、善は存在するのか」——形而上と形而下のはざままで。現代人に贈る、思索の入り口。

#### 『睥睨するヘーゲル』

講談社／1997.1 (定価1600円)  
「考える言葉」が世界をひらく。世に溢れる全勘違いを粉砕するメタフィジカル・エッセイ。

## 知ることより考えること——たとえば、

#### 『考える日々 全編』

毎日新聞出版／2014.11 (定価2700円)  
「われわれは、認識する以外はできない種族なのだから、腹を括って、存在することを笑いましょう」——時代が移り変わっても考える人は揺るがない。考えることは、どんな困難も越えてゆく。第一集の刊行から十数年、いまま読み継がれる哲学エッセイ「考える日々」全3冊をここに集成。池田晶子と過ごす1000日。

### 対話 していますか？

#### ——そこに言葉が生まれ、 驚きと出会う

#### 『無敵のソクラテス』

新潮社／2010.1 (定価2800円)  
著者の独創のひとつは「対話篇」の再創造だ。名著『帰ってきたソクラテス』に始まる対話篇の全貌が、ついにこの完全版で明らかに。創作した対話篇シリーズのすべてを、生前の著者の意図に沿って一冊に再構成。巻末に池田晶子・選「大人のための哲学書案内」も併録。いま蘇る、史上最強の対話術。

#### 『メタフィジカル・パンチ』

毎日新聞出版／2014.11 (定価1500円)  
小林秀雄への尽きぬ想いととも、考える人々を生き生きと読み解く人物批評。初期の名著を、新編集で復刻！

#### 『オン！ 埴谷雄高との形而上対話』

講談社／1995.7 (定価1800円)  
二つの「よく似た意識」の遭遇が生んだ画期的対話。著者の処女論考「埴谷論」の決定稿を収載。

#### 『新・考えるヒント』

講談社／2004.2 (定価1600円)  
小林秀雄と池田晶子、思惟する魂の宿命的な出会いが生んだ「正しく考える」ためのヒント。著者だから為し得た、考える姿の「本歌取り」。

#### 『死と生きる 獄中哲学対話』

[共著=陸田真志]  
新潮社／1999.2 (定価1500円)  
生きるべきか死ぬべきか？ 殺人で死刑判決の共著者が「善く生きる」ための対話を著者に投げかける。息詰まる言葉の劇が始まった。

#### 『君自身に還れ 知と信を巡る対話』

[共著=大峯顕]  
本願寺出版社／2007.3 (定価1400円)  
宗教学者にして俳人の大峯顕氏との対談。宗教、言葉、死、救いなど、現代の知と信を巡る諸問題を、宗教と哲学の立場から鋭く問い詰め、語り合う。

#### 『幸福に死ぬための哲学』

——池田晶子の言葉！  
講談社／2015.2 (定価1000円)

#### 『絶望を生きる哲学』

——池田晶子の言葉！  
講談社／2017.5 (定価1000円)  
どんな時代にも強く生きるためのヒント！ 人生を変える、ゆるぎない言葉がここにある——。池田晶子の文章のエッセンスを集めたユニークな「言葉集」。

#### 『言葉を生きる』

考えるってどういうこと？  
筑摩書房／2022.6 (定価1100円)  
ベスト「哲学エッセイ」のアンソロジー。はじめて池田晶子を読むのに最適な一冊。

## 池田晶子の本

——考える精神は、  
誰のものでもなく、不滅です。  
(池田晶子)

### 哲学はお好き？ ——哲学の歴史を旅すれば

#### 『人生は愉快だ』

毎日新聞出版／2008.11 (定価1500円)  
ここに、人類の死の精神史が描かれた！古今東西の、死を問い続ける思索者たちの言葉を味わい尽くし、意表を突く人生相談で人生の妙味を語る、驚異の一冊。

#### 『2001年哲学の旅』

[池田晶子=編・著/永沢まこと=絵]  
新潮社／2001.3 (定価2200円)  
ギリシャ、トルコ、ドイツ、スイス……「哲学の聖地巡り」を実際に楽しみながら、その神髄をやさしく学ぼう。著者ならではのコンプリート・ガイドブック。

#### 『考える人 口伝西洋哲学史』

中公文庫／1998.6 (定価800円)  
学術用語によらない日本語で、永遠に発生状態にある「哲学」の姿を損なわずに語る大胆な試み。ベストセラーの文庫版。

### 考える生活 ——未来のあなたへ

#### 『14歳の君へ』

どう考えよう生きるか？  
毎日新聞出版／2006.12 (定価1143円)  
中学生へ向けて平易な言葉で書かれた「人生の教科書」。

#### 『14歳からの哲学』

考えるための教科書！  
トランスビュー／2003.3 (定価1200円)  
善悪・自由・愛・生と死……人生、一度は考えるべき三十の問いに、真正面から答える現代の古典。

#### 『人生のほんとう』

トランスビュー／2006.6 (定価1200円)  
ときに厳しく、また優しく、多くの人に肉声で語りかけた、心ゆさぶり胸を打つ六つの講義。

#### 『残酷人生論』

毎日新聞出版／2010.11 (定価952円)  
あなたは、まだ知らないのか？ 生きて「いる」ということの実態を。大人のための哲学を語る、魂の一冊。未収録一篇を加え再構成した増補新版。

#### 『リマーク 1997—2007』

トランスビュー／2007.7 (定価1800円)  
存在そのものに迫る、謎の思索日記。旧著に、亡くなる直前一ヵ月分の新稿を付した増補新版。思索の原形の言葉たち。

#### 『事象そのものへ!』[新装復刊]

トランスビュー／2010.2 (定価1800円)  
思考の発生と運動を、非人称かつ詩的な言葉で記し、天才の登場を鮮烈に告げた記念碑的作品。著者の原点。

[定価の表示は、消費税を含まない本体価格です。2022年12月現在]

